

CUBASE VST

バージョン5 機能概要

PC
VERSION

Steinberg

本書の記載事項は、Steinberg Soft- und Hardware GmbH 社および株式会社スタインバーグ・ジャパンによって予告なしに変更されることがあり、同社は記載内容に対する責任を負いません。本書で取り扱われているソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて供与されるもので、ソフトウェアの複製は、ライセンス契約の範囲内でのみ許可されます（バックアップ・コピー）。Steinberg Soft- und Hardware GmbH 社および株式会社スタインバーグ・ジャパンの書面による承諾がない限り、目的や形式の如何に関わらず、本書のいかなる部分も記録、複製、翻訳することは禁じられています。

本書に記載されている製品名および会社名は、全て各社の商標および登録商標です。

Original English Edition :
© Steinberg Soft- und Hardware GmbH, 2000.

Japanese Edition :
© Steinberg Japan Inc., 2000.
All rights reserved.

バージョン5 機能概要

ここでは、すでにCubase VST バージョン3.xをご使用の方のために、バージョン5の新機能を紹介します。各機能の詳細については、参照ページをお読みください。

- ここでは、バージョン5のすべての新機能や変更点を網羅しているわけではありません。バージョン5の新機能や変更点については、『詳細』をお読みになることをお勧めします。

- Cubase VST 5シリーズ全製品 24bitオーディオレコーディング対応

従来のCubase VSTとCubase VST Scoreは16bitオーディオレコーディングに制限されていましたが、Cubase VST 5シリーズでは全製品が24bitオーディオレコーディングに対応しています（24bitオーディオレコーディングでは、24bit対応のサウンドカードが必要です）。『詳細 - 30ページ：レコーディング解像度の選択』をご参照ください。

- Cubase VST/24に代わるCubase VST/32

Cubase VST/32では、オーバーロードの心配がない、32bitフローティングポイント（浮動小数点）オーディオファイルのレコーディング/プレイバックを行うことができます。これは、従来ほんのわずかなクリッピングでミックスダウンを駄目にしていた、オーディオ/VSTインストゥルメントトラックのミックスダウンに特に有効です。さらに、32bit フローティングポイントオーディオファイルは、並外れたダイナミックレンジを実現します。『詳細 - 31ページ：32bitレコーディング』をご参照ください。

- ディザリング機能

新たに搭載されたディザリング機能により、CDを作成する場合など、16bitオーディオファイルへのミックスダウンの際にハイクオリティな変換を行うことができます。『詳細 - 474ページ：ディザリングの使用』をご参照ください。

- Cubase VST/32 Apogee社 UV22ディザリング機能

Cubase VST/32のディザリング機能は、業界標準ともいえるApogee社のUV22ディザリングアルゴリズムを採用しています。『詳細 - 474 ページ：ディザリングの使用』をご参照ください。

- Cubase VST 5シリーズ全製品 インターネットスタジオセッション対応

Cubase VST 5は、Rocket Network 社がサポートするInWire システムにより、インターネット上の他のCubase VST 5 ユーザーとリアルタイムに1つの曲の共同作業を行うことができます。『インターネットスタジオ』をご参照ください。

- MP3デコード機能

Cubase VSTは、MP3ファイルを読み込む際に直接Waveファイルに変換します（『詳細 - 530 ページ：オーディオファイルの読み込み機能の使用』をご参照ください）。オプションのMP3 エンコーダープラグコンポーネントを使用することにより、直接MP3ファイルに書き出すことも可能です。

- TrueTape™レコーディング機能

Cubase VST/32は、TrueTape™レコーディング機能を搭載しており、アナログテープレコーダー特有の温かみのあるサウンドをデジタルレコーディングで実現することができます。『詳細 -32ページ：TrueTape 32bitレコーディング』をご参照ください。

- ウィンドウセット機能

Cubase VSTの主要ウィンドウ（アレンジウィンドウ、MIDI/オーディオエディタ、VST ミキサー、トランスポートバーなど）の位置や設定を、ウィンドウセットとして登録することができます。ウィンドウセットは、いつでも呼び出すことができ、作業に応じて瞬時に画面の切り替えが行えます。『詳細 - 690ページ：ウィンドウセット機能』をご参照ください。

- フォルダトラック

フォルダトラックは、トラックや他のフォルダトラックを収めることができるアレンジウィンドウ上のフォルダです。トラックをフォルダトラックにまとめることで、アレンジを組み立てたり、複数のトラックのミュートや編集を同時に行うことができます。また、フォルダトラックを「閉じる」ことにより、画面上の作業領域を増やすこともできます（この場合も、フォルダトラック内のパートのグラフィック表示を確認することが可能です）。『詳細 - フォルダトラック』をご参照ください。

- アレンジウィンドウとデスクトップ間のドラッグ&ドロップ機能

選択したパートやイベントをアレンジウィンドウからデスクトップにドラッグ&ドロップし、パートファイルを作成することができます。パートファイルは、アレンジウィンドウにドラッグ&ドロップできます。これにより、パートのライブラリーを簡単に作成できます。『入門 - 341ページ：ドラッグ&ドロップ』をご参照ください。

- 各ウィンドウ間のドラッグ&ドロップ機能

選択したパートやイベントをエディタにドラッグ&ドロップし、ノートを追加することができます。また、エディタで選択したノートをアレンジウィンドウにドラッグ&ドロップし、パートを作成することもできます。

- 範囲選択ツール

範囲選択ツールのドラッグにより、パートの境界に関わらず自由に選択範囲を設定することができます。選択範囲は、移動/削除/コピー&ペーストなどの様々な編集を行うことができます。『入門 - 165ページ：範囲選択ツールの使用』をご参照ください。

- アレンジツールの新しい操作方法

アレンジツールをトラックリストに直接使用して、トラック上のすべてのパートを編集することができます。『詳細 - 68ページ：トラック上のすべてのパートを1つに結合する』などをご参照ください。

- パート/イベントの新しい操作方法

カーソルキーまたはエディタの移動ツールを使用して、選択したパートやイベントを設定したスナップ値で移動することができます。『詳細 - 189ページ：移動ツールによるノートの移動』と『詳細 - 381ページ：移動ツールによる移動』をご参照ください。

- 新しいアレンジツール

アレンジツールボックスに、ボリュームや移調のツール（『入門 - 201ページ』参照）、タイムストレッチツール（『詳細 - 62ページ』参照）、グルーヴツール（『詳細 - 158ページ』参照）、ロジカルプリセットツール（『詳細 - 279ページ』参照）などの新しいツールを追加しています。

- キーエディタツールの新しい操作方法

ラインツールを使用して、同時に複数のノートの開始/終了位置をトリミングすることができます。『詳細 - 191ページ：ラインツールによる複数ノートの長さ変更』をご参照ください。

- 15360 分解能

緻密な編集のためのオーディオイベントの正確なポジショニング、また同様に VST インストールメントや Linear Time Base™ テクノロジー対応 MIDI インターフェイスでの正確なタイミングを実現することができます。『入門 - 42 ページ：分解能とティック』をご参照ください。

- グルーヴオンタイズの操作性向上

グルーヴは、1小節以上の長さも可能になり、編集/作成を簡単に行うことができます。グルーヴコントロールを使用することにより、タイミング、ベロシティ、長さが設定できます。グルーヴオンタイズの結果は、リアルタイムに試聴して確認することができます。『詳細 - クオンタイズとグルーヴの詳細』をご参照ください。

- マーカートラック

マーカーパートを使用して、曲の特定の位置や区間を確認することができます。Cubase VST のすべてのウィンドウで、マーカー選択用のポップアップメニューを表示させて選択することができます。『入門 - マーカートラック』をご参照ください。

- 新しいトラック欄

トラック欄の数的大幅に拡張され、インスペクターの設定値をすべてのトラックに表示させることができます。また、VST ミキサーのボリュームやパンなどの設定も表示させることができます。トラック欄は、表示/非表示や並べ替えが行え、その設定をトラックビューとして保存/呼び出しが可能です。『入門 - 194 ページ：トラック欄のレイアウト登録』と『詳細 - 688 ページ：トラックビュー機能』をご参照ください。

- MIDI トラックミキサー

MIDI トラックミキサーにより、ボリューム、パン、GS/XG エフェクトなどの MIDI トラックのパラメーターを、VST ミキサーと同様の完全オートメーション環境で調節することができます。MIDI トラックミキサーのミキサーモジュール数は、アレンジウィンドウの MIDI トラック数によって自動的に設定されます。独自のミキサーパネルを作成することも可能です。『詳細 - MIDI トラックミキサー』をご参照ください。

- コントローラーエディタ

コントローラーエディタは、MIDI コントローラー/VST オートメーション/すべての MIDI ミキサーオブジェクトデータのグラフィック編集を行うことができます（VST オートメーションデータは、波形表示を確認しながら編集が行えます）。『詳細 - コントローラーエディタ』をご参照ください。

- パートとエディタの新しい操作方法

エディタを開いた状態で、パートの追加や移動を行うことができます。『詳細 - 167 ページ：エディタを開く』をご参照ください。

- リアルタイム&ノンディストラクティブなブレイパラメーターの追加機能

MIDI トラックのインスペクターには、以下の新しいパラメーターを持つ拡張部分が追加されています。

- 長さ/ポジション/ベロシティ/ピッチ ランダム（『詳細 - 104 ページ』参照）
- MIDI ベロシティ 限界（『詳細 - 107 ページ』参照）
- MIDI ベロシティ フィルター（『詳細 - 108 ページ』参照）
- MIDI ベロシティ 最適化（『詳細 - 109 ページ』参照）
- MIDI ノート 限界（『詳細 - 110 ページ』参照）
- MIDI ノートフィルター（『詳細 - 112 ページ』参照）

- **MIDIトラックのマルチ出力設定**
1つのMIDIトラックに複数の出力を設定することができます。各出力に対して、MIDIチャンネル、MIDI出力ポート、新しいMIDIノート限界をはじめとするインスペクターのすべてのパラメーターを設定することができ、MIDI音源の多彩な使用が可能になります。
『詳細 - 101ページ：マルチアウト機能の使用』をご参照ください。
- **300以上もの新しいスコア機能（Cubase VST ScoreとCubase VST/32）**
楽譜の編集/レイアウト/印刷機能が大幅に改良され、300以上もの新しいスコア機能が追加されています。
『スコア』をご参照ください。
- **大量のMIDIミキサーオブジェクト**
MIDIミキサーオブジェクトの数が従来の128から大量に増え、新しいオブジェクトタイプも追加されています。『MIDIミキサーとミックストラック』をご参照ください。
- **複数のMIDIミキサーウィンドウ**
最大8つのミキサーマップを同時に使用することができます。それぞれ、個別のウィンドウに表示されます。『MIDIミキサーとミックストラック』をご参照ください。
- **各トラック/トラッククラスごとの高さ設定**
各トラックごとに高さを設定することができ、重要なトラックをわかりやすく表示することが可能です。同じトラッククラスのすべてのトラックを同じ高さに設定することも簡単に行えます。『入門 - 156ページ：トラックの表示サイズの変更』をご参照ください。
- **各トラックごとのパート表示設定**
各トラックごとに、パートに対して、名称、イベント、またはその両方での表示を設定することができます。MIDIパートに対しては、イベントをピアノロールタイプで表示できます。『入門 - 172ページ：パート表示と表示色』をご参照ください。
- **キーコマンド/MIDIリモートコントロール設定**
エディタやアレンジウィンドウのメニュー項目、機能実行、ツール操作などにキーコマンドを自由に設定することができます。また、これらの項目にMIDIコマンドを設定して、外部MIDI機器によるリモートコントロールも可能です。さらに、これらの項目はツールバーにも表示させることができます。
『詳細 - キーボードコマンド、MIDIリモートコントロール、ツールバー』をご参照ください。